

COC 公開セミナー

「停電の日英比較史からエネルギーの未来を考える」

講師：新広記 (SHIN Hiroki)

ロンドン大学バークベック校専任研究員・「エネルギーの物質文化」プロジェクト副代表

日時：7月31日(金) 16:40-18:10 (講演 60分)

場所：金沢工業大学・扇が丘キャンパス 23号館1階パフォーミングスタジオ

http://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ogigaoka.html

参加費：無料 (事前申し込みは不要です。どなたでもご参加いただけます。)

2011年の電力危機以降、エネルギー問題は日本で大きくクローズアップされ、エネルギーは広く社会で論じられる話題になりました。高度な電化製品が開発・利用される先進国でありながら、夏や冬の停電は日本各地で実際に起こりうる事態として考えざるを得ない状況です。そしてエネルギー供給途絶の懸念は日本に限られたことではなく、発展途上国では停電は日常の一部であり、ヨーロッパやアメリカにおいても大規模な停電が過去10年ほどの間に何度か発生しています。

このような実際問題としてのエネルギー途絶に対処する試みのひとつとして、過去の経験を見直しそれを将来に役立てていこうという考えが近年ヨーロッパでは強くなっています。エネルギー途絶の事例は、現代エネルギー(電気、ガス、石油)が一般に利用されるようになった20世紀初めから幾度も経験されています。しかしその経験の多くは、エネルギー供給ネットワークへの信頼が高まり、生活が豊かになるに従って忘れ去られてしまったのです。

この講演では、過去の経験がいかにして今日私たちが直面しているエネルギー問題を照らし出してくれるのか、イギリスと日本の停電の歴史を比較することで考えてみます。加えて、イギリスにおける私の研究生生活の経験から、歴史に対する社会的関心が特に強いと言われるイギリスにおいて、現代の問題に対処するために歴史がどのように活用されているのか、お伝えすることができればと思います。

司会：夏目賢一 (金沢工業大学)

講演者略歴

青山学院大学(学士)、東京大学(学士・修士)、ケンブリッジ大学(博士)。専門は社会経済史。イギリス金融史に関する論文によってケンブリッジ大学より博士号を取得。2008年米国イェール大学で客員フェロー、同年から英国ヨーク大学歴史学部にて専任研究員として交通史についてのプロジェクトに携わる。2013年からマンチェスター大学でエネルギー比較史プロジェクトを開始、2015年1月より現職。ヨーク大学歴史学部名誉フェロー。

主催：街の達人発掘・発展学習プロジェクト(地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)：地域志向「教育改革」による人材育成イノベーションの実践)

後援：日本科学史学会・普及委員会

連絡先：夏目賢一 knatsume@neptune.kanazawa-it.ac.jp